

人生に無駄な時間はあるか？ — 節分に想う —

校長 青野 保

桜の蕾が大きくなってきました。春はもうすぐです。

(極めて私事を書こうと思います。そのため、敬体ではなく常体とします。)

私は、保育園に3日しか行かなかった。保育園に行くといつも、それまで面識がなかった〇〇君がいて、何故か私を追いかけ捕まえると投げ飛ばしていた。それが嫌でたまらず、登園時間になると私は家の隅に隠れるようになった。何とか行かせようと、裁縫が得意だった母が、かわいいアップリケのついた通い袋を作ってくれた。私は「そりゃ、行かないさ！」と颯爽と断り母の期待を裏切った。母は笑って、保育園をやめさせてくれた。



その後は、たいてい祖母と一緒に過ごした。引きこもることなく、田畑の中や山道などを歩き回った。そのおかげで、ドドメ(桑の実)、イタドリ、野蒜(のびる)、ニラ、土筆(つくし)など食べられる植物をたくさん覚え、後に自分の娘たちに教えることができた。娘たちは、自然好きで感受性豊かに育つたと自負している。

家では、動物図鑑を飽きずに見ていた。いつしか絵に描き写すようになり、さらには母の大きな裁ちばさみで下書きなしで切り取れるようになった。これが、近所で結構な評判となった。地元紙の記事になったり、老人ホームの慰問に招かれたり、なんとテレビにも出演し、桂三枝(現・文枝)師匠や故・三波伸介さんらと共演した。小学校のお楽しみ会で度々披露させられ結構人気があった。これを機に生来の内気を克服した。

保育園で私を追い回していた〇〇君とは、小学2年の時、剣道の道場で再会し、中学校の剣道部や生徒会本部で切磋琢磨した。今は、校種は異なるが、それぞれ校長職を務めている。彼がいなければ今の私はなかったと断言できる。

普通の子と違って保育園に適応できずに通わなかった私は、無駄な時間を費やしたのだろうか。働く両親の代わりに面倒を見てくれる祖母がいたという幸運もあった。これまでを振り返れば、保育園では学べない知識や技能を身に付け、貴重な体験ができたと思っている。

生徒の中には、「自分は今のままでいいのか?」「自分は価値のない存在なのではないか?」「人生なんて無駄だ!」と思い悩んでいる者がいる。私のアドバイスは、「いいんだ!無駄などない。後で必ず生きる、活かしていく!それが大事。価値は将来の自分が見つけてくれる」だ。生徒達には、諦めず粘り強く日々を過ごしてほしいと切に願う。

母の誕生日が節分だからか、この時期になると母をきっかけに幼かった頃をよく思い出す。冬と春の季節を分ける節分。暦の上でも春は確実に近づいている。